

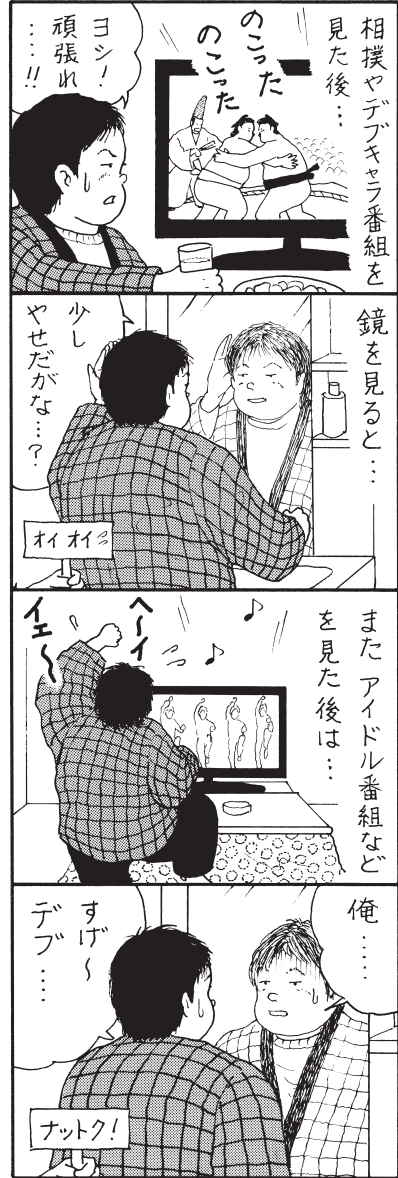
町民のひろば

耳よりな情報やご意見、ご質問などお気軽にお寄せください。
総務企画課広報統計係 ☎66-2111 内線 224

さわちゃん劇場

(澤口浩 作画) 117

ひとゆ 一冬たくわえた体の巻



遠藤 李桜ちゃん

(3歳3カ月・星野)
裕太郎・祐子さん長女

お兄ちゃんと犬のぬいぐるみで遊ぶわんわんごっこに夢中のリーちゃん。思うようにいかないと怒る“きかんぼちゃん”です。お米をといでいると、「おいしくな〜れ!」とおまじないをかけてくれます。元気いっぱいもいいけれど、ちょっぴり女の子らしく育ててね。 祐子



栗村 龍二くん

(3歳3カ月・栗山)
幸栄さん・優香さん次男

つみき遊びが大好きなじんじん。お兄ちゃんとケンカしたり、思いどおりにならずごんぼをほったり、元気が過ぎてキズが絶えません。パパが一人で寝れないよと言うと、一緒に寝てあげるやさしいところも。人の気持ちがわかる、思いやりのある子に育てて欲しいです。 優香

わが家の
— 370 —
アイドル

ハイ、元気です

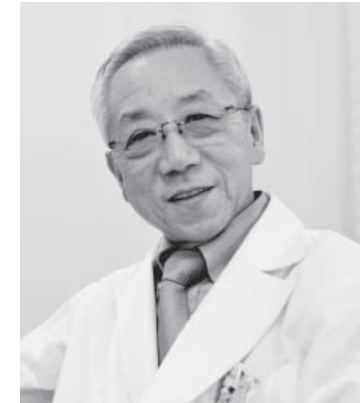
227



竹田 トシさん
(82歳・新町)

「毎日、お店の掃除をしたりしてとにかく体を動かしています。もうすぐ畑に出るのがとっても楽しみです」と春が待ち遠しい様子のトシさん。近所の友だちでいつも集まってお茶を飲みながら話をしたり、月に1回はカラオケに行ったり楽しんだりしているそうです。「朝早く仕事に出る孫たちから、ばあちゃん、起こしてらうだいな」と声かけられると、幸せだなあと思っています」と笑顔で話してくれました。

県立中央病院名誉院長 佐々木崇先生が葛巻病院に着任



「いいあんばいに使ってください」と佐々木崇先生

「葛巻町にはすごく思い入れがあります。大学生のとき、リュックを背負って久慈を出発し袖山高原、安家まで歩いていた途中、江刈川子どもたちと一緒に遊んで、分校の講堂に泊めてもらったことがあります。一宿一飯の恩義ですね」と話す佐々木崇先生(66歳・盛岡市出身)。4月1日、葛巻病院理事として着任しました。

平成18年ごろから、全国的に医師不足の状況になり、本町でも医師確保に奔走。「葛巻病院も大変な状況になって、当時中央病院の院長になったばかりの私にも、ご相談いただきました。それから中央病院の若い先生方が自分の診療や勉強をしながら、交代で葛巻に診療に来てくれています。そのことで私も葛巻のいろんなことを知る機会になりました。そして、“なんとか医者はいませんか”と、町民の健康のため、葛巻病院を守るため、奔走する町長さん方が非常に印象深く、葛巻に来るきっかけにもなりました」と振り返ります。

大学では腎臓や肝臓の臓器移植について研究、平成元年から勤務した中央病院では消化器外科で、主に胃・肝臓・

膵臓など消化器の手術を担当。昨年3月の退職までの6年間は病院長として活躍されました。同年9月から葛巻病院整備検討委員会の委員長に就任し、今年2月からは、週3日外科の外来診療も始めました。

「(私を)いいあんばいに使ってください。町内に出向いて、皆さんと一緒に病気の予防について考えたり、困ったときの相談相手になればと思っています」と抱負を語り、「人はどうしても限りがある命。そのときまで、元気で生き生きであれば、それが一番です。一緒に町の中で生活させていただければと思っています。よろしく願いいたします」と笑顔で語る佐々木先生でした。



下柳 有也さん (27歳・田の沢)

家庭を築き親孝行したい

大学を卒業後、福島で物流関係の仕事をしてきた有也さんは、昨年11月にUターン。家業の「富士運送」でご両親やお兄さんらとともに働いています。小さいころからトラックが好きで、よくお父さんの運転するトラックの助手席に乗っていたそうです。「今までは使われる立場でしたが、これからは逆の立場。甘えは許されないし、憧れだけではつとまりません」と気を引き締めます。

葛巻タイガースから専修大学まで続けた野球は、「全員でひとつの目標に向かって一生懸命やるところが魅力」と話します。人にとけ込んでいくのが苦手らしいのですが、3月に行われた出会いのイベント“ゆいっお〜”に参加。「運営で先輩たちが、とっても盛り上げてくれて、すごく楽しめました」と地元の人たちの温かさを実感。

理想の女性は、年上の人で料理が上手な人。「早くいい人を見つけ家庭を築き、親孝行したいです。仕事でも兄やおじさんを助けていきます」と話す有也さんです。

今日のショット



江刈中



小屋瀬中



葛巻中



卒業式・葛巻小